



道

2018年9月1日

僕の部屋に幼い姉弟の写真が2枚掲げてある。二つの写真の子どもたちはよく似ている。同じ仲の良い姉と弟のように見える。でも違う。母親が別なのだ。僕は両方の子どもたちの心に大きな傷や影を残して、今に至る。▼僕が35歳で子どもたちと別れる時、姉は、先の写真を選んで僕に手渡してくれ、弟は僕を見つめて小さく手を振った。その姿は、僕の脳裏に深く刻まれて消えることはない。以来、今迄、子どもたちと会う機会は訪れていない。▼ごく最近になって、姉弟の母親が既に他界していることを人伝に聞いた。姉には中学生の子どもがいるということも。▼再婚して子どもが生まれる。今度も姉と弟。僕はその子たちの元から、またしても、居なくなってしまう。そして、何年かたって、一緒に暮らしていた女性は、僕が子どものことを思っていじいじする姿に耐えかねてか、「子どものところへ帰れ」と僕をその家から追い出す。▼子どもたちが母親と住むマンションから数分のところに、僕は居を移した。子どもたちにとって奇妙な「二重生活」が始まる。そしてその生活は、下の子が大学生になり、僕が定年になって郷里の真備町に帰るまで続く。「朝起きて、お父さんの所へご飯を食べに行く、とか、嫌やった」。今、大人になった子どもは、そう、しみじみ語る。 《裏面に続く》

〒710-1301
岡山県倉敷市真備町箭田 5188
090-5366-1497
michi-care@outlook.jp
<https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也

遠田
椋の木



《本文続き》 ▼今、僕がこうした文章を書いて公表することを、子どもたちはどう思うだろうか。いつまでも自分勝手な奴だと言われることはあっても、僕の過去が免罪されることはない。▼なのに何故、書くのか。「未曾有の災害」が起こった真備町に住む僕。まさに、この水害を見たからだ。町の中心地が水に沈み泥にまみれ50人を超える死者を出した「真備」。誰がこれを想像しただろうか。明日、何が起こるかわからないことを突きつけられた。それまで大事にしてきたものが突然消える。明日の保証はない。ほんとうに大切なものは何なのか。……。言うべきことは言っておいたほうがいい。書こう。そう思った。子どもたちに会いたい。そして、詫びたい。許されないにしても。▼この言葉は子どもたちにどう届くのか。怖い。小心の僕がここにいる。